

## QUARTER REPORT

第 123 期

## 中間報告書

2023年12月1日 ▶ 2024年5月31日

## 株主の皆さまへ

ファインケミカルの無限の可能性に向けて、  
今後も研究開発活動に力を注いでまいります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第123期上半期（2023年12月1日から2024年5月31日まで）が終了いたしましたので、この間の事業概況をご報告申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境は、長期化するロシアによるウクライナ侵攻に起因するエネルギー価格の高止まり、中東における地政学的リスク、世界的な金融政策の引き締めによる世界経済の減速懸念、継続する中国経済の低迷など依然として不透明な状況が続いております。

米国では、良好な所得環境から堅調な個人消費が持続していますが、金融引き締めにより全体では景気拡大のペースに鈍化がみられます。

中国においては不動産市場の悪化による景気の減速感は一服したものの、個人消費の落ち込みにより景気は低迷しました。

日本経済は、インバウンド需要の回復、賃金上昇と雇用情勢の改善、円安による企業業績の改善、また、日経平均株価がバブル期以来となる最高値を更新するなど、緩やかな景気回復が継続いたしました。

当社グループに関係の深い自動車産業においては、生産は回復基調となりましたが、一部メーカーの品質問題による生産停止の影響ははまだ続いております。

このような環境の中、当社グループは2022年を起点とする中期経営計画（第121期「2022」から第125期「2026」まで）「ACCEL2026－革新を強力に推進し、

代表取締役社長

山田 秀行



成長を加速する」で策定した目標の実現に向け、受託合成品の拡大、新製品開発の推進及び市場拡大への挑戦を更に進めるうえで、生産能力の増強を目的に既設マルチプラントへの設備投資を進めております。

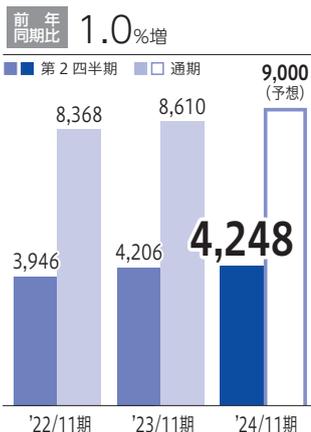
経営資源の効率化とコストダウンを全社規模で取り組んだうえで、更なる品質の向上、安定供給を進めるために不可欠な人材確保を目的とする労働環境の改善に着手し企業価値を高める活動を積極的に行っております。

このような状況の下、ゴム製品の販売は自動車生産の回復と海外向け汎用品の需要回復及び特殊薬品の新規用途向け販売の増加により、売上は前年同期を上回りました。樹脂薬品、中間体、その他薬品については市場低迷の影響を受け、売上は前年同期を下回りました。

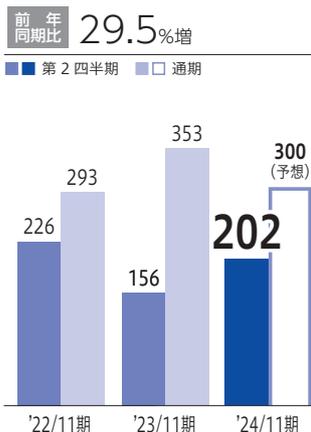
これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は42億48百万円（前年同期比1.0%増）営業利益は2億2百万円（同29.5%増）、経常利益は2億11百万円（同35.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億92百万円（同59.7%増）となりました。

## 連結財務データ

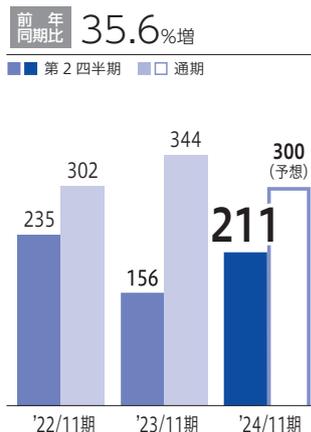
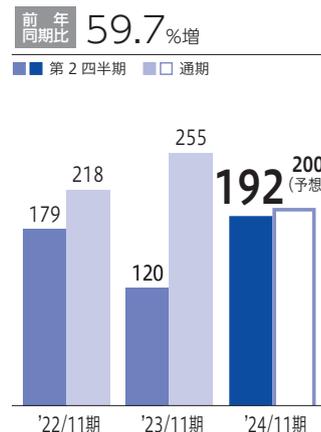
## 売上高 (百万円)



## 営業利益 (百万円)



## 経常利益 (百万円)

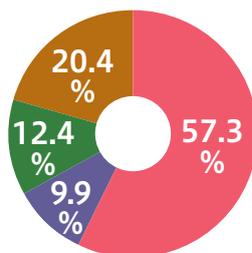
親会社株主に帰属する四半期  
(当期) 純利益 (百万円)

## 部門別の状況紹介

### 部門別売上高構成比

- ゴム薬品
- 樹脂薬品
- 中間体
- その他

(不動産賃貸事業部門 0.5% 19百万円含む)



経営資源の効率化とコストダウンを全社規模で取り組んだうえで、更なる品質向上、安定供給を進めるために不可欠な人材確保を目的とする労働環境の改善に着手し企業価値を高める活動を積極的に行っています。

## 化学工業薬品事業部門

### ゴム薬品

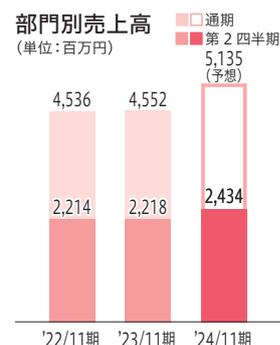
#### ◎売上高24億34百万円（前年同期比9.7%増）

##### ▶事業の紹介

タイヤやケーブルなど人々のライフラインを支えるゴム薬品、さらには、ヘルスケアに欠かす事が出来ない医療用ゴム製品への添加剤の提供を通じ人々の豊かな生活を守っています。

##### ○当中間期のポイント

- ・国内の工業用品向け製品は自動車部品関連向け製品を中心に売上は増加。タイヤ向け製品は主力製品の販売が低迷し売上は前年同期を下回る。
- ・合成ゴム向けは自動車関連用途向け特殊ゴム需要の回復とスポット販売製品を受注。売上は前年同期を上回る。



### 樹脂薬品

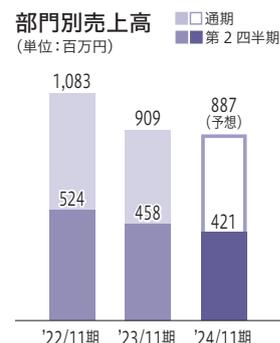
#### ◎売上高4億21百万円（前年同期比7.9%減）

##### ▶事業の紹介

世の中は省エネルギーに向けて進んでいる中、環境に配慮した高機能樹脂に置き換わりつつあり、そこに当社グループの樹脂薬品が使われています。また、当社が得意とする技術を生かし、ディスプレイなど成長著しい電子材料の添加剤を提供し、社会に貢献しております。

##### ○当中間期のポイント

- ・主要販売先であるアクリル酸・アクリル酸エステルの需要が国内、海外共に低迷。



### 中間体

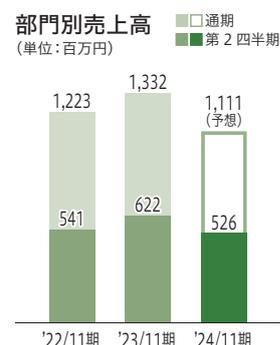
#### ◎売上高5億26百万円（前年同期比15.5%減）

##### ▶事業の紹介

農業や医療で必要とされる原料の提供を通じて人々の豊かな生活を支えています。

##### ○当中間期のポイント

- ・中間体は、界面活性剤中間体は顧客の需要が堅調に推移。農薬中間体は需要が低迷し、主力製品の売上は前年同期を下回る。
- ・医薬中間体は医療用途脱水縮合剤の需要が低迷。染料用途製品は緩やかな需要回復が見られたものの、売上は前年同期を下回る。



### その他

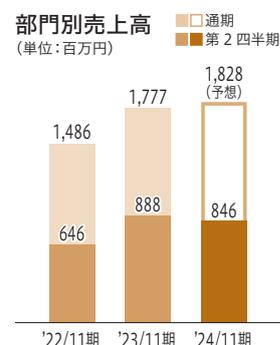
#### ◎売上高8億46百万円（前年同期比4.7%減）

##### ▶事業の紹介

環境用薬剤は家庭や企業などから出るゴミを焼却する際に発生する鉛や水銀を安全に捕集し、環境を守るお手伝いをしています。

##### ○当中間期のポイント

- ・当社が得意とする特殊添加剤の需要は堅調に推移、今後も需要増の見通し。



## 財務データ

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
	2024年5月31日	2023年11月30日
<b>資産の部</b>		
流動資産	5,836	6,016
固定資産	2,205	2,324
資産合計	8,041	8,340
<b>負債の部</b>		
流動負債	4,088	4,761
固定負債	1,204	940
負債合計	5,292	5,702
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,673	2,541
その他の包括利益累計額	76	97
純資産合計	2,749	2,638
負債純資産合計	8,041	8,340

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自2023年12月1日 至2024年5月31日	自2022年12月1日 至2023年5月31日
売上高	4,248	4,206
売上原価	3,470	3,491
売上総利益	778	715
販売費及び一般管理費	575	559
営業利益	202	156
営業外収益	19	8
営業外費用	9	8
経常利益	211	156
特別利益	42	-
特別損失	2	1
税金等調整前四半期純利益	252	155
法人税、住民税及び事業税	40	26
法人税等調整額	18	7
四半期純利益	192	120
親会社株主に帰属する四半期純利益	192	120

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 自2023年12月1日至2024年5月31日	前第2四半期連結累計期間 自2022年12月1日至2023年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	89	223
投資活動によるキャッシュ・フロー	△96	△217
財務活動によるキャッシュ・フロー	△100	79
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	2
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△96	88
現金及び現金同等物の期首残高	1,043	910
現金及び現金同等物の四半期末残高	946	999

## TOPICS

### ■設備投資

中期経営計画（ACCEL2026）をスタートし、新製品開発の推進、市場拡大への挑戦、設備投資による環境負荷の低減、経営資源活用の最大化、システムの効率利用の推進の5つの事業戦略による企業価値の向上に努めています。そのうち、「新製品開発の推進及び市場拡大への挑戦」を進めるうえで、生産能力の増強を目的に既設マルチプラントの改修（生産設備の新設及び更新）を行います。



2025年5月 完成予定

// 6月 稼働予定

## 会社概要

設立 1937年1月11日

資本金 6億1千万円

従業員数 174名

## 営業品目

ゴム薬品 加硫促進剤、加硫剤、老化防止剤、加工助剤、  
しゃく解剤

樹脂薬品 酸化防止剤、重合調整剤

中間体 染顔料中間体、医薬・農薬中間体

その他 機能性化学品、その他各種工業薬品

## 事業所

本社 〒101-0047  
東京都千代田区内神田二丁目8番4号（山田ビル）本社事務所 〒332-0004  
及び川口工場 埼玉県川口市領家四丁目6番42号大阪営業所 〒550-0001  
大阪府大阪市西区土佐堀一丁目3番7号  
（肥後橋シミズビル）

## 主要な子会社

開溪愛(上海) 〒200336  
貿易有限公司 上海市長寧区延安西路2201号  
上海国際貿易中心1712室

## 役員

代表取締役社長 山田 秀行  
常務取締役 萱野 高志  
常務取締役 泉本 勝  
取締役 安藤 博之  
取締役 本間 義隆  
社外取締役(常勤監査等委員) 中村 一哉  
社外取締役(監査等委員) 石上 尚弘  
社外取締役(監査等委員) 鈴木 俊介

## 株式の状況

発行可能株式総数 4,000,000株

発行済株式の総数 1,217,469株(自己株式2,531株を除く)

株主数 1,705名

## 大株主

株主名	持株数	持株比率
山田化成株式会社	201,480株	16.6%
正喜商事株式会社	121,000株	9.9%
いずも産業株式会社	43,000株	3.5%
山田史郎	28,200株	2.3%
今川和明	25,600株	2.1%
三井化学株式会社	25,000株	2.1%
山田善大	20,650株	1.7%
両角義信	20,000株	1.7%
平峯直	17,300株	1.4%
高原哲也	17,200株	1.4%

(注) 持株比率は自己株式(2,531株)を控除して算定しております。

## 株主メモ

事業年度 12月1日～翌年11月30日

期末配当金受領株主  
確定日 11月30日

定時株主総会 毎年2月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座管理機関同連絡先 電話 0120-232-711(通話料無料)  
郵送先 〒137-8081  
新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所

電子公告により行う  
公告記載URL公告の方法 <https://www.kawachem.co.jp/>  
(ただし、電子公告による事が出来ない事故、その他やむを得ない事由が発生したときは、日本経済新聞に公告致します。)

(ご注意)

株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。

なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本店でお支払致します。

## 当社ホームページのご案内

ホームページは  
こちら<https://www.kawachem.co.jp/>

皆さまからのアクセスをお待ちしております!

 川口化学工業株式会社〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目8番4号 山田ビル  
Tel 03-3254-8481(代表) Fax 03-3254-8497UD  
FONTVEGETABLE  
OIL INKユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすい  
デザインの文字を採用しています。